

ひゅーまん ねつとわーく

地域に生きる

2011年10月 発行 / 第47号

社会福祉法人北摂杉の子会

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目6-6 奥野ビル 402 TEL 072-662-8133 FAX 072-662-8155 info@suginokokai.com



ジョブサイトひむろ 活動の様子

(療育活動、レクリエーション、日帰り旅行)

上右写真 日帰り旅行（名古屋港にて）

上左写真 療育クッキー作りの一場面

下右写真 日帰り旅行（名古屋港にて）

下左写真 レクリエーション（万博公園にて）

左から 高原圭三さん、井田正志さん、瀬戸文香さん、妹尾真衣さん

左から 豊澤徳子さん、山尾崇さん、計盛スタッフ、武田誠司さん

左から 森善希さん、田中薫さん

左から 田口敦夫さん、森田スタッフ、遠藤幸子さん、森善希さん、川合雅也さん



ジョブサイトひむろ10周年

ジョブサイトひむろ

施設長 ^{ひら}平 ^の野 ^{たか}貴 ^{ひさ}久

1.10年間を振り返って

平成23年春、ジョブサイトひむろが開設して10年が経過しました。

開設当時を振り返りますと、平成13年4月に高槻市氷室町にあります元企業が使用されていた倉庫を改装し、“地域のご利用者の皆さんの日中活動場所の確保”と“入所施設萩の杜ご利用者の職住分離の推進”を目的に、萩の杜分場「工房ひむろ南」としてオープンいたしました。

当時、市内作業所のメンバーの皆さまや在宅の皆さま、つきいき学園の卒園生の皆さま等、地域からのご利用者18名、萩の杜入所ご利用者25名、職員10名でスタートしました。

私自身、開設時の担当者として関わらせていただいております。ご家族様と密なコミュニケーションを図りつつ、通所の作業所を一から創造していくことの喜びと難しさに一喜一憂したことが、昨日のように甦ります。

翌年の平成14年「工房ひむろ北」が開設し、地域のご利用者29名、萩の杜ご利用者42名に増員となりました。その後、平成17年に知的障害者通所授産施設「ジョブサイトひむろ」として独立し、平成19年11月には、障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス多機能型事業所として、障がいの重い方を対象にした生活介護事業と、就労を目指すご利用者を対象とした就労移行支援事業をスタートしました。さらに平成22年4月には就労継続B型事業を開始し、現在の60名定員に至っています。

ジョブサイトひむろは、毎年のように支援学校の卒業生や関係機関からご紹介いただい

たご利用者の受け入れを図り、開設当初18名だったご利用者数も現在は、63名となっています。(萩の杜からの現在のご利用者20名を合わせますと合計83名が在籍されています)

2.大切にしてきたこと

この間、大切にしてきたテーマは「個別支援」です。ご利用者おひとりおひとりの障がい特性、障がい程度、コミュニケーションスキル等を十分に理解したうえで「個別支援計画」を立案し、具体的な支援では、おひとりおひとりの「強み」を活かし、「苦手」な部分を丁寧に支援する方法で実践を重ねてきました。ご本人の「主体性」を尊重し、例え重い障がいのある方でも、ご本人が前向きに生活を送っていただけることを目指してきました。

また法人理念である「地域に生きる」の具現化として、ご利用者をトータルに捉え、単に日中の支援だけでなく、将来の暮らしも含めて中長期的な目標を設定し、「個別支援計画」に盛り込み、包括的に支援することに取り組んでまいりました。その具現化のひとつが、ジョブサイトひむろのご利用者を主な対象とした「新ケアホーム」です。平成24年4月に高槻市奈佐原地区にオープンする予定です。

今年度は、生活介護事業では、ご利用者の加齢にともなう体力の低下等が課題になってきたことから、運動プログラムの充実を図り、新たに音楽療法、プール、トランポリン等の取り組みを開始しています。一方で、授産の充実として、療育グループの「クッキープロジェクト」や陶芸製品の販売促進を図る「は

にわプロジェクト」を開始し、自主製品の販売にも力を入れる取り組みを始めています。就労を希望されているご利用者に対しては、ご自身の「働きたい」という意志を尊重し、ご本人の「強み」を活かせる仕事を選定する。一方で職場内での「苦手」を調整し、単に就職がゴールでなく、長く安定して就労いただけることを目標に取り組んでいます。障がいの重いご利用者に対する今迄の支援ノウハウが、就労を目指すご利用者の支援にも活かされていることを実感します。

ご利用者の安心・安全の保障としてリスクマネジメントの強化が従来からの課題でしたが、今春発生いたしました「東日本大震災」を教訓とし、震災や災害時の対応も含めまして、危機管理の強化と業務の標準化を今年度のテーマとして整備をしているところです。

ご利用者さんの状態や取り巻く環境は常に変化しています。ご利用者への支援に「ベスト」はないと感じています。常に「ベター」を追求し、より良い支援のご提供を目指して、努めていきたいと思っています。

3. ジョブサイトひむろの今後

ご利用者の増員に伴い、今まで毎年のように新規ご利用者の受け入れを図ってまいりましたが、平成24年度以降は、スペース的に受け入れが困難な状況となってきました。私どもの支援をご希望いただいている方々がいらっしゃる中、受け入れが出来ないことは、大変申し訳ない次第です。また、ご利用者の今後の高齢化を想定いたしますと、バリアフリーな環境が望まれることから、近い将来、移転や新規事業所の開設が必要と考えています。

来年の新ケアホームの開設に伴い、ジョブサイトひむろだけでなく、高槻市内の法人内事業所であるケアホームみやた、萩の杜、ぷれいすBe、療育支援等との連携は必須と考えています。またご利用者の豊かな暮らしを支援することは、一法人では不可能で、法人外の各事業所

様との連携が不可欠と考えています。

ジョブサイトひむろは、今後も20周年、30周年と年月を重ねることになりますが、常に「個別支援」を追求しつつ、関係機関の皆さまと共同し、高槻市内にお住まいの障がいのある方が、地域での安心や安全が確保された中で、主体的なより良い生活を実現することを目的に邁進していく所存です。今後とも変わらぬ、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



ジョブサイトひむろ家族会結成10周年を迎えて

ジョブサイトひむろ家族会

会長 豊 澤 すすむ 進

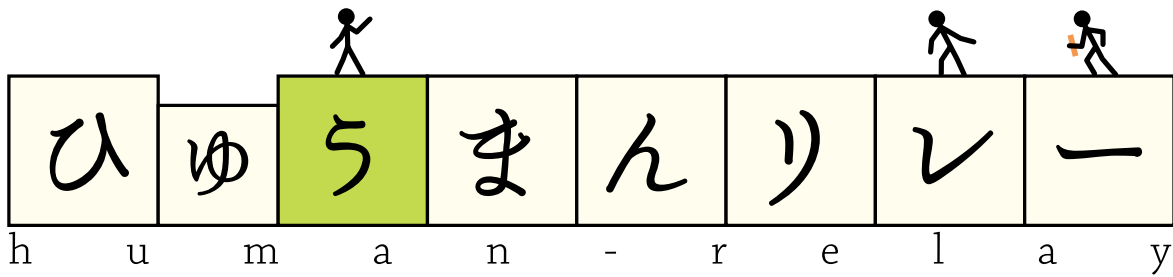
先ずもって無事10周年を迎えましたこと会員皆様方、法人各位、関係各部門の方々と共に喜びたいと思います。前会長沖本卓郎様よりお引き受けして以来、日も浅く十分な文章になるや否や不安であります但私なりの思うところを綴らせていただきます。

平成12年の夏前に私どもの三女・徳子が「つきのき学園」を終えるにあたり今後の進路をどうするかと家族で話し合っていた頃に当時ショートステイでお世話になっていた平野さん（現施設長）から、来年度の開設を目指して通所施設を計画しているので参加されませんか、とお誘いを受けたのが始まりでした。その当時、小生はまだサラリーマンとして勤務中であり、どこでもありがちだと思うのですが子供のことは女房にまかせっきりでよく理解もしていなかったように記憶しております。秋になりますといよいよ施設への入所に向けての準備が始まり、夫婦そろって萩の杜の松上施設長（当時）の元に伺い、「どうかよろしくお願いいたします」とご挨拶したのが杉の子会との出会いでした。

当初沖本様を中心にした「ふれんずほうす」から6名、佐藤様（ご利用者）たち「在宅」の方々から6名、私どもを含めた「つきのき学園」から6名、総勢18名からのスタートで年を越しても施設は出来ておらずやきもきしながら家族会の立ち上げに向って会則を作り、総会の準備と忙しげにしている女房殿を見ておりました。4月3日に工事中の施設での入所式があり晴れてジョブサイトひむろの一員となりました。4月15日に全ての工事が終わり関係者を

招いての開所式が執り行なわれ、松上施設長の「地域に生きる」の具現化という言葉に子供たちの将来を託せるという思いと、安堵感に浸ったことが昨日のように思い起こされます。18名の家族会メンバーも今や55名（利用者は63名）、1人1人、それぞれ背負っているものは違うのですが子を思う親の気持ちは同じです。又、今迄我が家だけで抱え込んでいたものが皆で考えられるということがどれほど大きな意味があるのかを実感してきた10年でした。そして年齢を重ねてまいりますと萩の杜の入所と比較して通所という点で「親亡き後」という大きな命題が家族会の大きな宿題となってまいり、何とかケアホーム建設という大きな夢を抱いておりました。夢は見るものではなく叶える物という家族会の後押しと沖本様をはじめとして法人の皆様方のご尽力で平成24年のケアホーム開設が現実のものとなって参りました。これにより新たな道が開けてゆくと確信いたしております。

一方これからも第2第3のケアホーム、子供たちの障害の重度化・高齢化という課題、そして施設の老朽化という課題が持ち上がってまいりました。これからの家族会の進む方向として、これらの課題に対して法人ともども夢を夢で終わらせないで実現に向けて家族会会員の皆様と、努力・協力を柱として心の支えとなる親睦の実をあげてまいりますと共に、今までの10年に更に磨きをかけた次の10年に向かいチャレンジしてゆこうと決意を新たにいたしました。



リビングライブラリージャパン事務局(東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野内) たまり まき
玉利 麻紀さんより

対話をつながりのきっかけに

私はリビングライブラリーという活動を担当しています。リビングライブラリーは「生きている本」を貸し出す図書館です。読み手は本を借りることで、30分あるいは45分の間、語り部である「生きている本」と対話することができます。

リビングライブラリーで「生きている本」となるのは、ホームレスや薬物依存からの回復途上者、セクシャルマイノリティ、車いすユーザー、アスペルガー症候群当事者、視覚障害者、大学教授、アーティスト、お坊さん、元セックスワーカーなど、誤解や偏見を受ける可能性のある人たちです。さまざまな背景や特徴のある人たちですが、ユニークな経験をもっているという点で共通しています。

読者はある一定のルールのもと、自由に質問を投げかけることができます¹⁾。お互いに話しやすい雰囲気大切にしたいので、読者は多くても4人と少人数に限定されています。このように、「生きている本」と読者との直接対話を通し、多様性への理解を図るという試みがリビングライブラリーです。

私はリビングライブラリージャパン事務局²⁾の一員として、平成20年から、年に2~4回のペースでこの企画を開催してきました。「生きている本」の皆さんには、それまでの体験や思

いについて、ご自身の言葉で語ってまいります。このことに対し「障害などマイノリティ性についてなんでわざわざ語らせるのか？」という意見もあります。ここで、これが回答という訳ではありませんが、私が大切にしているエピソードについてお話しさせてもらおうと思います。

私は以前、5年程、大阪に住んでいた時期がありました。それまでは東日本で育ったので、初めての関西暮らしでした。引っ越した当初は、大阪の人たちのコミュニケーションの取り方にとっても驚きました。一番衝撃を受けたのは、友人や知人が自らの駄目なところや短所をネタに、自らを落としては笑いにすることでした。

私は子どもの頃から、「みんなが簡単にできることが自分には頑張ってもできない」と悩んできました。それがADHDの特徴に当てはまるというのは、大人になってから知ったことです。私は自分の駄目なところをひたすら隠し、周りから浮かないように、過剰適応的に振る舞う術を身につけてきました。ですから、自分の短所をばんばん表に出し、それで笑いをとっちゃうなんてことは、それはそれは衝撃的でした。

そこで、ある日、私もトライしてみることにしました。「昨日な、こんな失敗をしてな…」と

話してみると、友人が大笑いしてくれました。びっくりしました。自分の「駄目なところ」がネタになるんや!という初めての体験でした。

別の日、自分の苦手なことを職場の親しい人に話してみました。すると、できないことを周囲の人が助けてくれるようになりました。代わりに、私は自分でできることをしました。結果的に、それまでよりもうまく作業が進むようになりました。「ああ、そうか、役割分担か」と、とても気が楽になったことを覚えています。

大阪での生活で、駄目なところは弱みではない、という体験を積み、むしろ弱みを開示することで人とのつながりを感じる経験を踏んで、自分自身と折り合いがつくようになったと感じています(もちろん、未だに、駄目なところに直面して嫌な気持ちになることは度々ありますが…)。この体験から言えるのは、それまで、弱さとか駄目なところは人に話してはいけない、と自分で決めつけていたことが、実は「バリア」だったのかもしれないということです。

「生きている本」の方が語るストーリーには、私には想像できない程しんどかった経験や困難が含まれていることもあります。しかし、その「ネガティブ」とも受け取られがちな経験について対話することで、「生きている本」と読者が、また、「生きている本」同士がつながるきっかけになり得るのではないかとも思うのです。

十人十色の役割分担。苦手な人がいるなら得

意な人がすればいい。「生きている本」と対話を紡ぐことで、自分の役割が見えてくるかもしれません。いつか、障害などについて日常のなかで対話することが自然になる、そんな社会になることを夢見て、これからもリビングライブラリーという取組みを継続していきたいと思っています。

みなさまのご来館を、心よりお待ちしております。

- 1) リビングライブラリーでは、「生きている本」は見ず知らずの人に自らの経験を話すこととなります。そのため、「生きている本」が傷つくことを回避するために、いくつかのルールを設定しています。まず、「生きている本」は実名を語る必要はなく、仮名であっても構いません。また、「生きている本」には、答えたくない質問には答えなくていいことや、読者から嫌な質問が続く場合には対話時間を中断してもいいことを伝えています。そして、読者は、「生きている本」を大切に扱い故意に傷つけるような質問はしないことや、録音や録画はしないこと、「生きている本」個人が特定されるような内容をブログ等で公表しないこと、などに同意しなければ登録ができません。発達障害の方や知的障害の方など、会話でのコミュニケーションに苦手さや困難のある方が「生きている本」となる場合は、「辞書」と呼ばれるコーディネーターが同席し、「生きている本」の伝えたいことを「翻訳」して読者に説明することもあります。なお、「生きている本」への事後のサポートを準備しておくことは言うまでもありません。
- 2) リビングライブラリージャパン事務局は東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野(中邑賢龍研究室)に置かれています。

地域における包括的支援体制の構築をめざして

～地域連携を考えて～



淀川地域障害者就業・生活支援センター

センター長 た なか きよ ひと 田 中 聖 人 さんより

淀川地域障害者就業・生活支援センターは、大阪市内に7ヶ所の地域障害者就業・生活支援センターがある中の1ヶ所です。現在大阪市内の淀川区、東淀川区、西淀川区の3区を担当させていただき、身体障害、精神障害、知的障害、発達障害等をお持ちの方に対して就職に向けてのお手伝い、また就職してからのお手伝いをさせていただいています。具体的に言うと就業に関する相談や面接の練習、履歴書・職務経歴書の作成、職業訓練場所・職場等見学や紹介、職場実習の紹介、ハローワークや面接への同行、就職してからのアフターフォロー、職業生活における相談や情報提供等をさせていただいています。

現在約140名の方が登録をさせていただいていますが、約90名弱の方が就職をされており、残りの方が今後就職を目指している方です。最近の状況としては、新規相談者の方の数は年々増えてきています。特に精神障害のある方や発達障害のある方の相談が増加しています。様々な相談の中で職業訓練を希望される方に対しては、ジョブサイトよどさんをはじめ就労移行支援事業所や就労継続支援事業等へ通所させていただいています。

また、就職することだけが重要ではなく、いかに働き続けるかということを考えて行かないといけないと思います。一時的な支援というのではなく、その方の将来を見据えた支援が求められていると思っています。長期に関わっていくということになれば就労面だけではなく、生活面からも様々な問題が出てくる場合があります。その為、1ヶ所の機関だけでは支えていくのにも限界があるように思います。地域の機関とも連携していく必要があります。しかし『連携』と言ってもまだまだ形だけで未熟な部分があるように思います。そうならないためにも法人の枠組みを越え、それぞれの機関が顔を合わせ、情報の共有をし、地域の課題を出し合い、解決できるように取り組んでいくことが必要に思います。



社会福祉法人高槻市社会福祉協議会

やま だ しん じ
山 田 真 司 さんより

高槻市社会福祉協議会は、住民主体の理念のもと、誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現を目指して地域の福祉課題に取り組んでいます。その取り組みの1つである「小地域ネットワーク活動」では、小学校区エリアを基本に「地区福祉委員会」というボランティア組織を作り、ひとり暮らしの高齢者の人々、障害を持った人々、子育て中の親子を対象に、会食会、ふれあいサロン、声かけ見守り活動などを地域のボランティアの人々と取り組んでいます。しかしながら、障害をもった人々や認知症高齢者への支援など、ボランティアによる支援だけでは困難なケースも近年増えてきており、民間施設など、専門知識のある方々との連携強化が今後の課題となっています。

また、本会は、市内の保育・児童・障害・高齢分野の50以上の施設が会員となって組織されている「高槻市民間社会福祉施設連絡会」の事務局として民間施設と連携した事業を推進しています。現在大阪府下では、民間施設による地域貢献事業への取り組みが注目されていますが、高槻市では他市に先駆けて連絡会を組織し、「あんしんねっとあゆむ」という名称で相談支援事業を展開しています。連絡会会員施設が持つ知識と人材を活用し、地域の中にあるニーズに対して、いつでも、どこでも相談できる体制を築き、身近な福祉相談事業としてJR高槻駅前に相談室を開設し、来所者の悩みごとや心配ごとなどの相談に対して適切な機関につなぐ役割を担っています。貴法人からも、萩の杜、ジョブサイトひむろ、ぷれいすBeの皆さまにご協力をいただいております。また、子育て支援の一環として、地域内の子育て中の親子を対象とした保育園の園庭開放に出向き、巡回型の相談事業も実施し、あんだんて様に協力していただき、発達段階の子どもを育てるうえでの悩みや不安といった相談ごとに耳を傾け、療育支援を行っている事業所の紹介などを通して家族の不安解消に努めています。これらの取り組みを更に充実していくため、事務局である本会としましても、地域と施設をつなぎ合わせる接着剤として日頃からニーズ把握などのバックアップに努めています。

さらに本会では、平成23年4月に高槻市との合同で「第2次高槻市地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定しました。その計画の中で「地域の誰もが立ち寄れる居場所づくり」、「コミュニティソーシャルワーカーと地区福祉委員会や社会福祉関係団体との連携強化」といった目標を掲げ、今後はさらに地域に密着したセーフティネットを構築し様々なニーズをキャッチできるよう、貴法人の施設の皆さまの一層のご協力をお願いしたいと考えております。



ケアホーム経過報告

ジョブサイトひむろ

施設長 平野 貴久

平成24年春の開設を予定しております新規ケアホーム（建設地：高槻市奈佐原）は、主にジョブサイトひむろのご利用者の将来の暮らしの場として、数年前から家族会の皆さまと協働して開設に向けた活動を続けてきました。特に『障がいの重いご利用者や行動上の「課題」のあるご利用者が、地域で安心して暮らすことが出来るケアホームの創造と、それを支える支援システムの構築』をテーマに、環境（建物等）面とソフト（支援体制）面の両面について、数年にわたり、研究、計画を進めてまいりました。

今回の新規ケアホームは3棟の建物で、それぞれ7名、7名、6名のご利用者の生活を支援いたします。入居予定のご利用者の大半は、重度の知的障がいのある方や自閉症で行動上の「課題」のある方々となっています。皆さまが少しでも安心して暮らせる工夫のひとつとして、建物内をエリア分けすることで、さらに少人数の生活単位を実現することを目指しております。また将来の高齢化を見越し、完全バリアフリーの環境、医療との密接な連携を計画するなど、今までの「萩の杜」での経験や、入所施設から地域移行されたご利用者を支援している「ケアホームみやた」での経験を活かし、今まで当法人が培ってきたノウハウの集大成の場と位置付けて計画してまいりました。

また平成21年度には、厚生労働省の障害者保健福祉推進事業『強度行動障害を持つ自閉症者の地域移行を支えるグループホーム・ケアホームおよび入所施設の機能の在り方に関する先進事例研究』を他法人と共同で受託し、アメリカのノースカロライナ州アルバマーレでのグループホームの実践や、北海道の「はるにれの里」様の実践を視察・研究し、そこで学んだノウハウも取り入れました。

開設につなげるまでには、土地の確保を始め、様々な難題が山積し、紆余曲折を続けてまいりましたが、平成23年8月4日付で3棟全てに補助金の内示をいただくことが出来ました。この内示を受けて、建設に向けた動きが具体的に始動いたしました。今回内示をいただくまでには、開設に向けたご家族の“熱い想い”を始め、各関係機関の皆さま、開設を後押し下さっている多くの皆さまのご支援、ご協力をいただきました。皆さまに心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

実際のスタートはこれからです。「障がいの重い方の地域での安心した暮らし」の支援モデルであることを自覚し、これから周到な準備を重ね、開設を迎える所存です。しかし、私ども法人の力だけでは、まだまだ微力です。地域の皆さまを始め、高槻地区の関係団体の皆さまの支援連携は不可欠です。今後とも新ケアホームと入居を予定されているご利用者へのご支援、ご協力、そして応援をよろしくお願い申し上げます。

ケアホーム説明会ならびに現地見学会



ジョブサイトひむろ家族会

会長 豊 澤 すすむ 進

日時 平成23年8月10日(水) 午前10時～午前11時 説明会
午前11時～午前12時 現地見学会

場所 説明会 ぷれいすBe内「Café Be」
見学会 建設予定地(高槻市奈佐原)

出席者 入居希望者全員20家族

説明会

建設費用に要する資金について当初予算から紆余曲折がありました但最终的に確定する段階に至り、初期費用及び以降の借入金の返済等について最終確認を行い、全員一致で了承。

現地見学会

過去予定地についての見学会は行ったが正式に決定された建設予定地は初めての見学会となる。設計を担当された株式会社 二井清治建築研究所 二井清治所長、二井るり子副所長、中村理事長、沖本副理事長、松上常務理事、総務部佐々木部長、ジョブサイトひむろ平野施設長にも参加いただき、現地で設計図と合わせて見学できたことはケアホーム入居希望者の家族たちにとって、いよいよケアホームが現実のものになるという喜びと、設計の細部についてこの時期に最終確認が出来たことは誠にタイムリーで入居希望者の会全員感謝、感謝でありました。



『「スローワーク協会さん」と「ケアホームみやた」との連携』

～ ホームの清掃や食事提供などの取り組み ～



ケアホームみやた

主任 黒木 由希子

北摂杉の子会のケアホームみやたは「地域に生きる」を設立理念とし、生活の質の向上や、人としての尊厳、潜在的な生きる力を大切にしています。ケアホームとは、障害のある人が、住みなれた町で、支援を受けながら暮らしていく「ご利用者のための家」です。ケアホームみやたがどのように地域の社会資源を活用しながら暮らしているか、ご報告したいと思います。

人が「生活する」ということを考えるとき、「どこに住むのか」「誰と住むのか」「どうやって食べていくのか」「どういう暮らしがしたいのか」などいろいろ考えます。自分がされて嫌なことは、人にはしないということを念頭において支援をしています。支援員（入浴など直接介護をするスタッフ）が、ホームで暮らす人の立場になって、その現状をどう感じるのか、どう捉えるのかによって必要なことが見えてきます。平成21年5月、必要と感じたことはいくつかありましたが、地域の社会資源活用の視点からは「清掃をきちんとすること」「食事作りの体制を安定させること」の2つの課題がありました。

1 〈清掃をスローワーク協会さんに委託〉

ご利用者にとって、心地よい空間を整えること、大切にされていると感じ取れる空間を作ることは、豊かに暮らしていく中での基盤となります。

ケアホームみやたの支援体制は、6:30～9:30、16:00～21:00、21:00～6:30となっていました。夜間以外の時間帯に、入浴や食事等の直接の支援、洗濯、買い物、お小遣いや

薬の管理などの日常に必要な業務を行なっていたため、最小限の清掃しか出来ていませんでした。

平成21年6月ご縁があって、NPO法人日本スローワーク協会さんに清掃業務をしていただくことになりました。スローワーク協会さんとは、ひきこもり経験を持つ若者を支援する活動の中から生まれた団体です。スローワーク協会さんとケアホームみやたの間で、清掃日、時間帯、清掃箇所（5住居分のトイレ、浴槽、リビング等共用部分）、1か月の賃金等の業務の確認を月1回の会議で決めて、実際の活動はスローワークさんにお任せしています。今までにお休みされたことは一度もありません。このことは、厳しい人数で支援体制を組んでいるケアホームみやたにとって、とても重要なことなのです。

見学の方がこられると、みなさん口を揃えて「きれいにされていますね」とおっしゃって下さいます。支援員は個室を主に清掃していますが、



トイレ掃除

スロークさんが担当されているところがきれいになると、他の汚れている部分が気になってきて、余裕があるときには、いつも出来ない所の清掃が出来るようになってきます。

2 〈週に一回の夕食作りをカフェコモンズさんに委託〉

ケアホームみやたの食事は、3人の世話人(食事を作るスタッフ)がローテーションを組んで、1年365日の朝食(土日は昼食も)、夕食を作っています。限られた経費の中で工夫をこらした料理を作っています。ある時期世話人の休みが重なり無理な勤務体制になっていました。そして、その勤務を調整することに労力が取られていました。

そんな中、スローク協会さんが「カフェコモンズ」というお店で、就労継続支援A型事業を開始することによって、平成22年4月から週1回の夕食を、委託契約で料理して持ってきていただけることになりました。コモンズさんのメニューは豊富で、前日から仕込んでいたものがあったり、食べる前に温めなおすことも計算して料理して下さっています。盛り付けは支援員がするため、一つひとつに指示書が付いていて、メニューによっては、2通りの食べ方ができる物もあります。味、堅さ、大きさなどノートを通じてやりとりしています。「コモンズさんのごはん好きやから、やめんといてな」というご利用者の声も出てきています。コモンズさんも1回のお休みもなく、それどころか契約日以外の注文も受けて下さるので、世話人が休みになった場合も安心して利用させていただき、とても助かっています。

3 〈スロークさん、カフェコモンズさんに業務委託をしてみても…〉

清掃がきちんと出来てきたことや、食事作

りの体制が安定してきたことで、勤務を調整することも減り随分余裕が出てきました。そして



京都1泊旅行

支援員は他に必要なこと、「余暇」に取り組みはじめました。ご両親がおられない方、帰省が出来ない方を対象に「ホームに残っているからこそ楽しいことをしよう!」と1泊旅行や日帰り旅行を行っています。ご利用者も「次はいつ?」と「次」を楽しみに作業に行く姿がみられています。

カフェコモンズさんの「カフェ・コモンズ通信」に「ケアホームみやた」のことが述べられていましたので紹介いたします。【「ケアホームみやたでの清掃作業を通して「やれないかも」が「出来るかも」に変わった時の心境の変化は大きく、自然と続けようと心に決めた】【おもしろいのがこの仕事、清掃を学びながら自らの住居の掃除にも役立つ。達成感があり大事なのはそういった部分ではないか?】とありました。ちなみに、ケアホームみやたの清掃業務はスローク協会では最高の時給とのことで、ご満足いただけているとのことでした。

「すみません」と謝ることの多い地域での暮らしですが、「ケアホームみやた」もいろんな人との関わりの中で、その方の生活の一部としての役割を果たしているのだな、とうれしく思う通信の内容でした。清掃している時間は、ご利用者が作業に出ている時間帯なので「次は顔の見えるお付き合いの機会はないかな?」とお誘い



箕面スーパーガーデン日帰り旅行

いただいています。

小さな広がりですが、これからも確実な関係を続けていければと思っています。

おいしく『食べる』ことを支援するために ～療育グループでの取り組み～



支援員 つかたくにこ
津堅久仁子



支援員 いとうのぞみ
伊藤 望

平成22年度のジョブサイトひむろの事業計画に『食の充実』が挙がっており、施設全体で『食』の改善に取り組みを始めていました。祝日開所日の特別メニューの展開、麺類の提供、新しいデザート（カップゼリー）提供の開始など、献立内容が彩りを増していました。そしてジョブサイトひむろの療育グループでは、一品一品の味を味わうこと、ご利用者自身の持てる力で食べ進められることを目標に、ユニバーサルデザインのコモン（common）^(注1)皿を4種類導入しました。その経緯や取り組みについてご報告します。

^(注1)コモン(common)【形】

- ①共通の、共有の、共同の ②公共の、社会全体の ③普通の、ありふれた、よく起こる
- ④一般的な ⑤並の、(平凡な、;特別の位のない;平民の)

— genius mobile 英和より —

1) はじめに

療育グループには、男性5名、女性3名のご利用者が通所されています。重複障害（視覚不自由、握力が弱い、左側に麻痺がある）や、てんかん発作のある方、自閉症の方など様々な障害特性のあるご利用者が所属しています。個別に対応できる内容を豊富に用意し、毎日の散歩やドライブ、室内運動や音楽活動、授産活動（クッキー作り）、花の販売・配達など、4名のスタッフが日々支援にあたっています。

療育グループは、ジョブサイトひむろ南の厨房から通りをはさんだ向かい側にあり、こうした立地上の問題から昼食を弁当箱で運搬していました。弁当箱は仕切りが浅く、持ち上げるには重すぎ、お箸やスプーンを自由に使うことが困難な療育グループのご利用者にとって、常に食べづらい様子が見受けられました。栄養士や給食業者にお申し、具材をそれぞれのご利用者に適した大きさに刻んでもらったり、おにぎり一口大、おにぎり極小（ティースプーンに載

る大きさ）にし、対応をしていました。自助具の工夫や改良、改善もおこなっていましたが、しかし、仕切りが浅いために、主菜・副菜が一箇所に混ざってしまい、一品一品の味を“味わう”ことに欠けていました。また、基本的にお皿を持てるご利用者も、大きく重い弁当箱では、その淵に口をつけて食べざるを得ず、食べこぼしの多さや姿勢の悪さなども目立ちました。スタッフの介助が必要な場面?それとも不必要?など、支援の在り方について考えさせられることが多くありました。



従来のスタイル

2) 取組みのはじまり

以前当法人事業所ぶれいすBe（多機能型通所施設）に所属していた言語療法士が法人研修分科会で話した、「重度の障害を抱えていても、人間には“味わう楽しさ”があります。」という言葉が大きく印象に残りました。

「ご利用者ご自身のペースで食事を進めているのだろうか?」「それぞれの摂食機能に適した食べかたをしているのだろうか?」「ご利用者ご自身にとってスムーズな動作で食べているのだろうか?」など、色んな疑問符が湧いてきました。そして“味わう楽しさ”をご利用者に提供するには、まずどんな取組みが必要なのか?を考えるようになりました。

療育グループ担当の支援員と、一人一人のご利用者の食事場면을観察し、現状の問題点や特記事項などを記録し、検討しました。その結果、ユニバーサルデザイン^(注2)が施されたコモン(common)皿を使用する方法をとることにしました。お皿はデザイン性に優れ、形状は一般に使用しても何ら違和感がありません。お皿には深さがあり、丸みのある形状で、底がしっかりとテーブルにつき、多少のことではズレません。また内側が真っ直ぐで、すくい上げる時に機能的で、たくさんの優しさに溢れるお皿でした。

(注2) ユニバーサルデザインの7原則

- 1 どんな人でも公平に使えること
- 2 使う上で自由度が高いこと
- 3 使い方が簡単で、すぐに分かること
- 4 必要な情報がすぐに分かること
- 5 うっかりミスが危険につながらないこと
- 6 身体への負担がかかりづらいこと（弱い力でも使えること）
- 7 接近や利用するための十分な大きさと空間を確保すること



写真② コモン皿は持ち上げやすく
手の中に丸くおさまります



写真③ コモン皿はご利用者の使う
スプーンの動きと相性がいいです



コモン皿4種類 調理の食材に合わせて
使い分けています

3) コモン (common) 皿を導入して

現場スタッフと一緒に、ご利用者の個別支援について活発に議論を交わしました。その人の持てる機能を最大限に活かせることは、その人を“認める”場面が増えていくことに繋がります。スタッフの介助が少しでも減ること、そして、ご利用者の“今ある能力“や、その機能が活かせる場面を作り出す支援がはじまりました。

それぞれのご利用者に適したお皿で食事を提供することで、一品一品の味を“味わう”ことが可能になりました。お皿を手にとって口に運ぶご利用者、お皿の内側を上手に使ってスプーンですくい上げているご利用者、お皿に多少の食べ残りがあっても、ご自身で“ごちそうさま”の合図が出せるご利用者など、いろいろな姿を新たに発見することができました。それぞれのご利用者の“食べる”姿が、少しでもその人に適した動作になること、また、その動作に少しでも近付けるような、“創造していく支援”の大切さを改めて感じました。

食事は五感が活発になり、触覚・嗅覚・味覚・視覚・聴覚がさまざまに作用して食べる意欲が高まります。また、思い出す味があったり、好

みの味、嫌いな味、硬い食材、柔らかい食感など、人間の感覚が明快になります。色んな味覚や好みの味を楽しみ、そしてその喜びを他者と共有し、更に他者へと繋がっていきます。そのような文化的な経験を共感できる関係にあるからこそ、全員で取り組めたのではないかと思います。

4) コモン皿の取組みを通して

コモン皿を導入するにあたっては、お皿の運搬方法、配膳の順序、介助方法についてなど、新たな課題が出てきました。運搬や配膳方法についてはスタッフ体制を整えれば解決しますが、介助方法や、本当の意味でこのお皿を活かした支援をするためには、スタッフの認識を統一する必要があります。初めは、「なぜ、このお皿が必要なのか?」、「どこまで介助をすれば良いのか?」、「ご利用者の食べ終わりのタイミングはどうするのか?」など、たくさんの疑問がスタッフの間で出てきました。そして、その一つ一つについて何度も話し合いをしました。答えが見つからない所もたくさんありました。しかし、一步一步進めていくなかで、「ご利用者にとってより充実した食事とは何か?」、「このお皿を使うことで実現できることって?」、について真剣に考え、「一品一品を味わえること」「食べ残しが少し位あっても、利用者さんの終了のタイミングを大切にすること」などの共通の認識を持つことができるようになりました。

通常の献立、丼物、麺類など食事内容が変わるとお皿の組み合わせも異なります。しかし、ご利用者それぞれの食べ方を把握することで、配膳方法もスムーズになりました。そして、お皿以外でもスプーンの形状や、台の高さ、お皿の角度など、スタッフの工夫をたくさん取り入れることができました。

コモン皿導入後は、ご利用者に様々な変化が見られました。様々な変化の中でも、共通している事のひとつとして、「好きなおかずの入った皿を、ご自分の食べやすい位置に移動させて食べられるようになったこと」があります。以前の弁当箱では、できなかったことですが、コモン皿は一品一品別の皿に入れているので、ご自分の好きなおかずを確認して、その皿を取り、

食べることができています。そして、このお皿は丸いため、スプーンをお皿の形に沿って滑らせることができます。最後までご自分のペースで食べる事ができるようになりました。以前は、食事を終えるのにスタッフの声掛けをずっと待っておられた方も、今では笑顔で、『かんしょくー（完食）!!』と食事の終わりを伝えられ、片付けまでしっかりとされています。また、コモン皿を持って、レクリエーションでバイキングに行きました。以前でしたら、外食となると普段よりもスタッフの介助が多い状態で食べ進めていました。しかし、このお皿を使うことで、どのような場所でも、好きなものを好きなペースで食べる事ができるようになりました。介助の場面が減ったことで、スタッフも一緒に食べる時間を共有でき、楽しい時間を過ごすことができました。このように、ご利用者の「食べやすい姿勢」で、「食べたい分量」を、「食べたいものから食べられる」ようになりました。

今年度より新規のご利用者が2名入ってこられました。ご利用者にとってどのような形状のお皿が食べやすいのか、スプーンやお皿の使い方、口への運び方など、評価のポイントが自然とスタッフの中に入っており、スムーズに導入することができました。

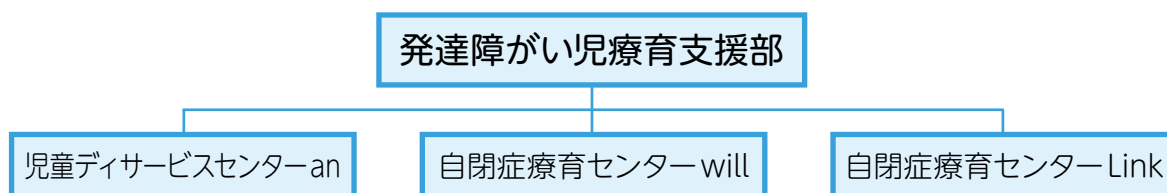
この取組みを通して、「おひとりおひとりに合わせた支援をしていく視点」と、それをスタッフ間で共有し、実行していく「チームの力」に気付くことができました。そして、それらのご利用者の持っている力を引き出せることに繋がりました。今後もこの意識を大切に、おいしく“食べる”ことを支援していきたいと思えます。

「支援の質の磨き上げ」を目指して ～療育支援部における「サービス向上検討委員会」の取組～



発達障がい児療育支援部 自閉症療育センターwill
主任 ^{なか} ^の ^{まい} ^こ 野 麻衣子

平成23年度は、第2次中期計画の仕上げの年として、サービス向上にしっかり取り組むことを方針として挙げています。そこで、今回は年度方針を踏まえ、「支援の質の磨き上げ」を目指した発達障がい児療育支援部(下図)の取組について、報告させていただきます。



1. 「支援の質の磨き上げ」を目指した『サービス向上検討委員会』の取り組み

(1) 部内委員会の発足

発達障がい児療育支援部（以下、療育支援部）は、現在15名の職員で利用者の皆さまの支援をしています。今年度、法人の年度方針には「質の磨き上げを全員参加で行う」ことが明記されました。そこで、療育支援部では、この方針を踏まえて「サービス向上検討委員会」を立ち上げ、その中に3つの小委員会を発足させました。職員はいずれかの小委員会に属し、それぞれの活動目的に沿って、月に1～2回程度会議の場を持ち活動を進めています。

委員会の立ち上げに向けては、①職員一人一人が組織に主体的に関わる場を設定すること、②職員一人一人の大切な“気づき”が「共有」できる場を設定することを目的に掲げ、検討を進めてきました。

私たち職員は、日常の療育業務において、それぞれが自分の役割を自覚し責任を持って業務にあたっています。その中で、小さな気づきや

アイデアがいろいろと浮かんでいきます。これまで私たちは、事業所ごとにおいてそれらを共有し、より良い形で発展させてきました。しかし、事業所を超えて、療育支援部全体としてそれらを共有する機会は少なく部の課題となっていました。

そこで、療育支援部において、支援の質を磨き上げさらなるサービスの向上をめざすためには、部内の職員一人一人が経験や立場の違いを超えて、さまざまな立場から組織やサービスを見つめ直し、協働していく必要があると考えました。職員の脳裏に浮かぶ日々のとりとめのない“気づき”。その一つ一つに、利用者の方々への支援やサービスの向上につながる大切な鍵が隠れているはずです。すべての職員が、療育支援部という組織の一員として、主体的に業務に関わり、協同して業務を改善していくことで、仕事にやりがいを感じモチベーションを高く維持することができます。そして、その意欲こそが、利用者の方々への支援の質を磨き上げ、さらなるサービスの向上につながると考え、委員会の立ち上げに至ったわけでした。

(2) 3つの小委員会の具体的な取り組み

委員会／活動目的

どの職員も法人職員として自覚や責任を持ち、主体的に組織に関わる

危機管理委員	広報委員	研修研究委員
<p>■目的 リスクマネジメント、予防</p> <p>〈災害担当〉 ①災害時マニュアル作成 緊急時に向けての備品整理 (地震、火災など含めて)</p> <p>〈ヒヤリ・ハット担当〉 ①各月のヒヤリ・ハットの件数 報告、ヒヤリ・ハット時の対応策の検討</p>	<p>■目的 外部への情報提供・関係機関との連携</p> <p>①ホームページの内容の充実を図る ②各事業所(an、will、Link)の取組を新聞として発行する(年3回程度) ③機関誌の画像提供、掲示板の記入</p>	<p>■目的 支援技術等に関する情報収集および職員へ情報提供、療育支援教材の研究</p> <p>①職員へ研修のお知らせ・回覧 ②研修会の情報共有／勉強会(たんぼぼ会)の設定 ③療育教材の研究、ご利用者への提供</p>

① 危機管理委員会

この委員会では、リスクマネジメントを大きな目的としています。具体的には、災害時におけるマニュアルの作成や、ヒヤリ・ハット事例(ハインリッヒの法則:大事故には至らなかったもののひやりとした現場におけるミス)の原因追究、今後の対策や検討を行います。ここでは、私たちサービスを提供する側から見た“気づき”は勿論のこと、戴いたご意見やお声を共有します。そして、支援サービスに即座に反映させるよう努めています。



② 広報委員会

この委員会は、療育支援部の事業や取組を、広く地域や関係機関へ広報することを目的としています。インターネットの普及により、必要な情報はウェブサイトを通じてやりとりされることが多くなってきました。そこで、療育支援部でも法人ホームページの充実を図り、広く皆様に情報発信できるように取り組みを進めているところです。右の事業所新聞はその一例で、実際にセンターで行われている療育の取組を定期的に紹介しているもの(法人ホームページ掲載中)です。





③ 研修研究委員会

この委員会は、支援技術に関する職員の専門性を高めることをねらって、さまざまな研修や研究の企画を目的としています。具体的には、職員が事例をとおして学びあう事例研究会や、発達障がいに関する研修会に参加して学んだ情報を共有する伝達講習会などを行っています。発達障がいに関しては、近年次々と新たな研究が進んでいます。また、国の新しい動きや制度の導入も頻繁にあります。関連分野の最新情報を仕入れながら、利用者の皆様に必要な情報を正確に届けられるよう準備を進めているところです。

2. 委員会を発足して良かったこと

委員会を立ち上げてまだ間もないのですが、職員の間では、少しずつ変化が見られるようになってきました。療育支援部は、それぞれの事業所（an、will、Link）が離れているため、これまで顔を合わせて話し合う機会は限られていました。しかし、委員会の発足により、療育における支援方法や取り組みに関すること、また、自分の事業所での日常業務に関する話題について、情報交換の機会が格段に増えました。さら

に、他事業所の良い取り組みや工夫を取り入れたり、支援方法について職員同士が議論し合ったりするなど、お互いが良い刺激を受け、励まし合いながら日々の業務をこなす姿が見られるようになりました。

また、それぞれの委員会での取り組みを「形」として残すことで成果が見えるようになり、職員のさらなる動機につながっているように思います。職員の動機をさらに高めていくためにも、今年度は、「災害時マニュアル」や「事業所新聞」などの取組を「形」にしていきたいと考えています。

こうした取組は法人が大切にしてきた「個別のニーズに合わせた支援」に応じていくベースとなっており、今後も、こうした取組の積み重ねにより、支援の質を磨き上げ、療育支援部のサービスを向上させる、地域や社会に向けての働きかけの一步を踏み出していきたいと考えています。

3. 今後に向けて

平成24年4月以降、障がい児支援サービスが児童福祉法に位置付けられ、事業の実施主体が市町村に移管されることになり、療育支援事業は大きな転換期を迎えます。

たとえ社会状況や制度に大きな変化があろうとも、私たち法人はこれに対応して、これまで積み上げてきたことを継続し、さらに発展させていくことが求められています。そのためにも、療育支援部では、職員一同「全員参加」で一人一人のニーズに沿いながらこの取組を進め、利用者の皆様、並びに地域や関係機関の皆様のご期待に応えられるよう努力していきたいと思えます。

「支援の質の磨き上げ」を目指して ～ご利用者の将来を思い描く視点での支援～



高槻地域生活総合支援センター ぶれいす Be
副施設長 きたのまゆみ 北野 真由美

ぶれいす Beは平成21年4月の開設以来、「あなたがいる場所」「あるがままで受け入れられる場所」を目指し、安心・安全を重視しながら運営してまいりました。皆様のご理解とご協力に支えられてのことと心より御礼申し上げます。通所事業は「生活介護（重症心身障害）」「生活介護（知的・精神障害）」「授産・就労支援」「自立・就労準備」のチームに分かれ、日々活動しています。今回はその一例として「社会生活力プログラムの提供」と「本人活動支援」を紹介させていただき、これら活動を通して「支援の質の磨き上げ」について考えたいと思います。

1. 社会生活力プログラムの提供

「授産・就労支援」「自立・就労準備」の両チームには、就労移行・自立訓練・就労継続B型・生活介護事業ご利用者が在籍され、ニーズと障害特性に応じたグループ分けと働くことを主とした活動を提供しています。両チームは「自立・就労チーム」として一体的にも機能しており、今回述べるプログラムもその中で実施しています。自立訓練的内容のプログラムですが、利用事業は問わず個別ニーズに着目して提供しています。

(1) 社会生活力プログラムの目的

社会生活力プログラムとは、障害を理解しながら自信を持って生きることや、生活の基本を確立し、社会参加やサービス活用、権利行使が可能となることを目的として、自立意欲と自己選択や自己決定を重視したプログラムです*。実施にあたっては、「自立した暮らしの基盤づくり」を目指し、「ご家庭との協力を重視」して、「身につけたスキルの自立・継続した実施や役割として担えること」を目標としています。“将来を思い描いた時、どんなスキルが必要か”という視点で、「自らが可能性を実現し、生活を生きていく」ための支援をと考えています。ご利用

者の中には、反復・継続によって確実に力とされる強みのある方がいます。このプログラムには日々繰り返されるものも多く、こういった強みとマッチします。時間は要しますがスキル獲得は期待できると言え、そのためにはご家庭とぶれいす Beとが目的や状況、変化を共有しながら継続していくことが重要と考えます。

(2) 取り組み内容と振り返り

昨年度は「調理」「身だしなみ」「掃除/洗濯」「金銭（使用管理）」「金銭（移動）」のテーマごとに数名でグループワークを実施しました（各テーマ全6回/調理は11回）。基本的な進め方は、学習→実践→振り返り→復習・宿題で、視覚教材や具体物を多く用いました。ご家庭へのアンケートやワークを通してアセスメントを行い、実生活に即した内容で展開しました。ご利用者同士では意見の受け止めも良く、ピアカウンセリングに通じる効果も見られました。

実施後のご家庭からのご意見には「自分でお金を支払



調理レジメ写真



洗濯機・衣類たたみ手順書

う機会が増えた」「(身だしなみが)人にどう見られているか意識するようになった」「マナーと

して歯磨きをするようになった」等がありました。宿題の実施や継続への働きかけ等、ご家庭のご協力があって初めて成立するプログラムです。この取り組みが暮らし方や自立度を考えるきっかけとなり、将来への思いを共有することにつながればと思います。調理プログラム参加者の中には「親が留守の間に自分でサンドイッチを作って食べた」という方がおられました。こうした姿から、普段の「用意してもらう」「待っている」という受動的行動から「自分ですませる」という能動的行動への変化と主体性の芽生えが見られ、プログラムの意義を感じます。

2. 本人活動支援

土曜開所日のプログラムを検討するにあたり、ご利用者からレクリエーション活動へのニーズが多く聞かれたため、自ら企画・運営する本人活動をスタートしました。この活動は参加者間の相互作用やグループダイナミクスを活かし、ルールや役割意識、ソーシャルスキルの向上も意図しています。

(1) 活動内容と進め方

年度の初回は、年間の活動計画とその担当者を決める話し合いを行います。事前に決めた司会者と書記の方を中心に①希望行事を意見として出す②投票する、という形で進めます。意見や投票は支援者が個別に支援し、考えを引き出すようにしています。最初はこうした進行に戸惑われましたが、次第にご自分達で進められるようになりま

した。「自分はAがいいが、皆と行くならBがいい」「待ち時間が長いとしんどい人もいる」と他者



小遣いシート

のことを考えて自分の思いを取り下げられる等、意見がまとまっていく過程は素晴らしいものです。担当者は行事前に詳細(日程、会費、昼食、案内作成など)を決め、当日は会費徴収や点呼など皆が楽しめるよう役割を担っていただきます。昨年度は①カラオケ・ボーリング②クリスマス会③動物園を実施し、多数が参加され盛況でした。

(2) 活動を通しての変化

どんな意見にも耳を傾けて話し合う姿勢や、場をわきまえたふるまいが見られるようになりました。自分達で決めることへの戸惑いは、経験の無さや決めてもらうことに慣れていることの表れですが、一度経験されると自信をつけていけます。全員が意見を出し、担当に立候補するというとても積極的な活動になっており、ご自身で何かをやりたい、担いたいと強く思われていることを改めて感じます。今年度はこの活動に「Beホップ」という名称が付けられ、自分たちの会であるとの意識が深まることを期待しています。

3. 支援の質の磨き上げについて

ふれいすBeには青年期から成人期への移行段階にあるご利用者が多くおられます。人生で最も長い成人期は、もてる力を活かして充実感のある暮らしをどのように実現していくかが重要で、それは味わい深く穏やかな老齢期へとつながっていきます。この時期の過ごし方によって、将来の「もてる力」が変わってくると思うと、支援者はその時期に適した環境や支援を提供しなければならないと思います。前述のプログラムもその一環になるようにと考えています。ご利用者の力を見出しているか、ご利用者に関わる一員として自分が思う以上に大きな影響を及ぼしていることを承知しているかによって支援の質は変化していきます。更にその質を磨くため、支援の意義やご利用者とご家族の幸せのために自分たちは何を役割としているか、を考え続けていきたいと思っています。

* 奥野英子編著『実践から学ぶ「社会生活力」支援』, 中央法規出版, 2007年

「ノースカロライナ州での研修報告」

～ ノースカロライナ大学チャペルヒル校 TEACCH 部における 自閉症スペクトラムの人たちへの就労支援 ～ **その3**



ジョブジョイントおおさか

副施設長 ^{たか}高 ^{はし}橋 ^{あきこ}亜希子

私は、サポーターシップ・エンプロイメント（援助付き雇用）プログラム（以下SEと記述）での研修で驚き、また素晴らしいと感じたものがいくつかありますが、その1つが今回ご紹介する「ロングタームサポート」（SEでは、LTSと読んでいました）です。ロングタームとは、「長い期間」という意味で日本語的に表現すると「長期的な支援」ということになるでしょうか。日本の就労支援的に言うとまさに「フォローアップ」です。

ロングタームサポートの対象のクライアント（利用者）のほとんどは、高機能自閉症/アスペルガータイプの人で、7月号で書かせていただいたように標準モデルで個別就労をしており、その人たちの職場と生活をトータルでサポートしていました。

ロングタームサポート担当のジョブコーチは、現在のSEでは2名で、ノースカロライナ州の州都ラーリー地域とSEのセンターのあるチャペルヒル・ダーラム近郊のエリアに分担されていました。どちらとも1人のジョブコーチが約20名のクライアント（利用者）を担当していて、1日に3～5人のクライアント（利用者）の職場を訪問していました。職場から職場へ車で移動して訪問し、車内がオフィスのような感じです。常に携帯電話で連絡調整をしておられました。そして、この2人の肩書は「エンプロイメントスペシャリスト」となっていました。

LTSは、自立の度合いとその人の課題によって頻度に違いがあります。毎週1回は職場を訪問する人もいれば2週間に1回、月に1回程

度の訪問でいい人までさまざまでした。

ノースカロライナの就職状況は、個別就労のクライアント（利用者）の時給で、7.5ドル～15ドル（最大）です（ノースカロライナ州の最低賃金7.25ドル）。昇給もあるそうですが、3～5年と経過して仕事が評価され、期待度が安定してはじめて昇給していくそうです。それは日本でも共通している部分です。

私は研修のリクエストとして、高機能自閉症/アスペルガー症候群の方の就労支援を見せてほしいと希望していたので、最初の約3週間はロングタームサポートのジョブコーチに同行させてもらうことができました。LTSのジョブコーチのキムは、自閉症の息子さんがいるお母さんで、とても穏やかで落ち着いていて、英語がすべてわかっていない私に対して、本当に親切に教えてくれました。本当に毎日毎日、いろんな職場のいろんなタイプのクライアント（利用者）を訪問することができ楽しかったです。

「ホール・フーズ」というオーガニック（無農薬・無添加食品）の高級スーパーへ訪問した時は、クライアントの上司と勤務時間帯の変更についての交渉をする場面に同席させてもらったのですが、日本の企業との交渉と似て非なるものでした。応接室などなくスーパーの事務所の中で、マネージャーもジョブコーチもざっくばらんなやりとりで（に見えました）、マネージャーは足を机の上に上げ、かなりリラックスした対応だったのは衝撃でした。交渉の内容は、週3日8時間勤務のとこ

ろを、週4日で6時間勤務にしてもらえないかという内容でした。交渉内容としては、日本でもありがちなことです。交渉は10分くらいのやりとりで、「よし！来週から」と決まっていた。

そのスーパーでは、もう1名女性のクライアント（利用者）が果物売り場でフルーツをカットする業務で働いていたのですが、職場のコミュニケーションで悩んでいるということで、約3週間の間に数回足を運びました。障害の特性上、コミュニケーションが苦手なことは理解できますが、周囲の人もスパニッシュ（スペイン語圏）の方で英語が片言しか話せないということで、お互いのコミュニケーションがうまくとり難いことで問題が発生していました。キムは、彼女たちのマネージャーと話をし、日頃の様子を聞き取り、こういう時にこう伝えてほしいということを説明していました。

また、ダーラムにある教育関係の製本会社では、やんちゃな感じのアスペルガーの青年が働いていました。最初に訪問した時の話題は、なんと彼が苦手な同僚の前で、わざとおならをしてしまうというものでした。理由を聞くと、その人を困らせてやろうと思った…と、幼稚な感じに思わず笑ってしまいそうになりましたが、キムは帰りの車の中で彼のお父さんに電話し、お家でも説明してもらおうようお願いしていました。彼は、社内メールの回収と発送を行っていました。彼の職場の同僚に最近の様子を聞き取ると、手順が飛んでしまったり、やり忘れがあることが発覚し、来週改めて手順を教え直すこととなりました。翌週は、本人の業務開始時刻に合わせて私たちも職場に出向き、キムがぴったりついて教え直します。彼は、カートを引いてメールの回収に職場を回っていくのですが、チェックリストを活用して活動が終わったらセルフチェックをすることを教えていました。

これは、少し余談ですが、彼のオフィスを訪ねてびっくりしましたが、自分のブース（個

室らしきもの）があるのです。アメリカでは、職員一人一人に対して個室があるのが一般的なので、そういう意味の個室です（特別な配慮が必要だからと用意された個室ではない）。

そこはまさに彼の城で、彼の好きなデューク大学のバスケットボールチームのグッズやペナントで埋め尽くされていました。休憩時間や、記録を書く時等は個室ブースで行っていました。はじめからこのように個室があると本人にとっての基点になる場として明確でわかりやすくいいなあと、ここでも感心しました。

LTSのほかのサポートの形態としては、ランチタイムに職場を訪問して一緒にランチを食べながら話を聞いたり、最近就職が決まり来週から就職するという方とは、ファーストフード店で待ち合わせしてそこで最近の様子を聞き取ったりなどされていました。

グリーンズボロという地域のTEACCH（ティーチ）センターでも就労支援の素晴らしい実践をされており、1週間お世話になりました。ここでもロングタームサポートの現場を見せていただく機会がありました。グリーンズボロTEACCHセンターでは、生活面の安定を重視して家庭訪問も行っていました。毎週決まった曜日時間にクライアントの自宅に訪問して、現状の振り返りと短期的な目標の確認を行っていました。印象に残った事例では、40代前半のクライアントで7年前にアスペルガー症候群の診断を受けた後アルコール依存症となり、2年にわたる支援の経過を本人のお話も含めて伺うことができました。アルコールを飲んでしまう状況分析をし、その対処法を明確にし、実行されていました。アルコールを飲みたくなる状況は、人恋しくてさみしい時やストレスが高い時とわかったので、それに対しての具体定な対処法をまずはTEACCHセンターで練習して、それから自宅でも行うように支援したそうです。この方はウォルマート（スーパー）で、フルタイムで週5日働いておられ、まじめにコツコツと頑張

るタイプの方です。嫌なことやストレスも我慢してしまうので、その反動でアルコールを飲んでしまうことにもなったようです。毎日の生活の中で、工作中に3回リラクゼーションタイムを取り入れて予防しているそうです。また、人恋しさを解消するために、ソーシャルグループにも参加し、所属感やいつ知人や友人と話ができるかの見通しをもたれていました。同じ障害のある方のサイトで友人ができたそうで、スターバックス（喫茶店チェーン）で会って話をするのが楽しみということを伺いました。この話から「働き続けること」は、生活と精神面の安定なのだとつくづく感じました。

ロングタームサポートで最も勉強になったのは、ソーシャルスキル^(注1)の支援とリラクゼーションです。この点に関しては、私が今まで行ってきた支援の中では、あまり重視してこなかったことでした。就職した後、フォローアップの支援になっても（というより、だからこそ）ソーシャルスキルの支援はもちろん、リラクゼーションやカウンセリングについても、自閉症特有の問題を視覚的な方法で支援されていました。就労して生活を継続していく限り、ソーシャルスキルの支援に終わりはないと、グリーンズボロTEACCHセンターのスタッフ（職員）グレナが教えてくれたことが、強く心に残っています。

まさにロングタームサポートは「就労生活を維持し続けるための支援」と実感しました。その証拠に、SEでは就労が長期に渡っていて、長い人で20年、平均して7～8年は継続しているのですから。人だけではなく、人としくみで支え続けていることの証と言えます。

最後に、SEでのロングタームサポートの戦略を紹介して、日本で就労をしているあるいは目指している方が、長く働き続けるためのヒントになればと思います。

ロングタームサポート戦略

- 構造化のアプローチを使って、職業スキルとソーシャルスキルを教える。雇用主あるいはクライアントによって視覚的なシステムを発展させる、または修正する
- 職場の同僚と上司に自閉症スペクトラムについて教育する
- 雇用主または上司と従業員（クライアント）との橋渡しとなり、仕事ぶりや問題点について議論する
- 質と生産性を保証し、職場のサポートを行う
- リラクゼーションと対処法を育て、実行する
- 社会参加の機会を通して社会性を育て、また2週間に1回のソーシャルグループ（集団での活動グループ）を行う
- 必要なこととして、個別のカウンセリングを提供する

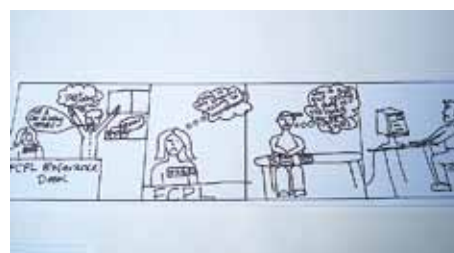
（多少固くごちない文書ですがご容赦ください）

(注1) ソーシャルスキル

社会の中で自立し主体的であるとともに、他の人との協調を保って生きるために必要とされる、生活上の能力



ロングタームサポートのジョブコーチが職場訪問し、業務を教えなおしている様子



職場で、同僚に冗談を言ったら相手はどう思うかを、イラストにして伝えている



アルコール依存症を併発した人の毎日の生活チェック表

北摂杉の子会のホームページ 更新情報

(平成23年6月～8月)

北摂杉の子会のホームページ（<http://www.suginokokai.com/>）では、様々な法人の活動や情報提供をリアルタイムで掲載しております。過去3ヶ月のホームページ更新状況をお知らせいたします。ホームページでは、機関誌のバックナンバーもご覧いただけます。ご興味のある方は『北摂杉の子会』で検索して、ぜひアクセスしてご覧ください！

掲載ページ	内 容
法人のご案内	後援会ご案内更新
各施設のご案内	ジョブサイトひむろ 情報更新
	大阪自閉症支援センター 情報更新
松上利男の一言	第49回 障害者虐待防止法と障害者身体拘束ガイドラインについて
お知らせ	「医療だより」を掲載
	日本知的障害者福祉協会機関誌「さぼーと」2011年7月号 執筆 アクトおおさかセンター長・新澤伸子
	PWS支援者ネットワーク活動・事例報告集発刊 萩の杜 事務局
機関誌	第45号更新
よどのコロッケ	2周年記念セールお知らせ
Café Be	イベント情報更新
	8月ランチメニュー掲載



共同募金施設整備費配分金事業完了のお知らせ

平成22年10月（平成23年度実施事業対象）に実施された、共同募金施設整備費配分金事業（大阪府共同募金会 <http://www.akaihane-osaka.or.jp>）により、当法人へ助成金が決定されました。

共同募金にご協力いただいた府民（寄付者）の皆様には感謝いたします。

助成金は、下記事業に有効適正に活用いたします。



対象事業	金額	事業所名	完了年月日
送迎用車両整備（更新）	1,275,000円	萩の杜	平成23年7月4日

ガレット（焼き菓子）を「お酒のデパート もりもと」様にて販売

ぷれいすBeで製造しておりますガレット（焼き菓子）を10月12日（水）より「お酒のデパートもりもと」様（阪急高槻市駅前：下の地図をご参照）にて販売しております。1枚が税込150円、かわいいパッケージの6枚入り税込980円、10枚入り税込1,630円となっております。

レジ前のお菓子コーナーに陳列されておりますので、お近くに行かれた際にはぜひお買い求めください。今後もガレットの販売場を広がっていく予定ですので、本誌や法人ホームページにて順次お知らせいたします。一度ご賞味いただければ幸いです。



お酒のデパート もりもと 株式会社もりもと

大阪府高槻市北園町14-13（阪急高槻市駅前徒歩1分） 年中無休 9:00～21:00 営業

機関誌46号 法人へのご寄附未掲載についてのお詫び

前46号裏表紙32ページ「法人へのご寄附に感謝いたします」にて、平成23年3月にご寄附いただいた方々に関しまして掲載漏れがございました。

ご無礼のございましたことを、謹んでお詫び申し上げますとともに、改めてここに掲載させていただきます。

受領年月日	寄附者
3月2日	金谷 健
3月8日	棚山 薫晴
3月8日	小川 敏夫
3月24日	北畑 政和
3月27日	中村 節史
3月27日	福田 啓子
3月28日	杉川 雅基

（敬称略）

掲示板コーナー

(平成23年6月から平成23年8月まで)

法人本部総務部掲示板

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 6月 8日 | 経営会議 | 第2号議案 | 新ケアホーム建設にともなう設計・監理業者の選定の件 |
| 10日 | 平成24年度採用説明会
会場 高槻現代劇場 集会室306号 | 第3号議案 | 新ケアホーム建設にともなう新築請負業者の選定方法並びに入札業者の適格条件の件 |
| 11日 | 平成24年度採用説明会
会場 生涯学習センター 第2会議室 | 第4号議案 | 新ケアホーム建設のスケジュールの件 |
| 15日 | 運営会議
人事考課の件 | 第5号議案 | 新ケアホーム建設に係わる公告事項の件 |
| 16日 | 自閉症啓発デー会議 | 第6号議案 | 独立行政法人福祉医療機構からの借入の件 |
| 22日 | 総務会議
勤務表の締め日の件
休憩時間の取り方の件 | 第7号議案 | 新ケアホーム建設に係わる土地賃貸借契約の件 |
| 24日 | 運営会議
人事の件
採用の件 | | |
| 27日 | 新ケアホーム説明会
会場 高槻現代劇場 306号室
二井清治建築研究所より基本設計の説明の件
資金計画の件 | 8月 6日 | 運営会議
人事の件
第2回法人研修
会場 高槻現代劇場 集会室305号
全体研修 『大変重い障害のある人たちの本人主体の地域生活支援～青葉園の実践を通して～』
西宮市社会福祉協議会
障害者生活支援グループ長
清水明彦氏
分科会1 「信頼される職員を目指して」
(初任者)
講師 本田英世理事
分科会2 「リスクマネジメント」(中堅)
講師 ぷれいすBe下施設長 |
| 7月 1日 | 平成24年度採用試験
会場 高槻現代劇場 集会室207号 | | |
| 2日 | 平成24年度採用試験
会場 高槻現代劇場 集会室206号 | | |
| 7日 | 新ケアホーム説明会
会場 高槻現代劇場 306号室
資金計画の件 | | |
| 7～8日 | 平成24年度採用一次面接
会場 法人本部2階会議室 | | |
| 11日 | 経営会議 | | |
| 14日 | 新ケアホーム説明会
会場 高槻現代劇場 306号室
住居の詳細説明の件
自閉症啓発デー会議 | | |
| 20日 | 平成24年度採用二次面接
会場 法人本部2階会議室 | | |
| 21日 | 入職者研修
「入職からの振り返り」
講師 松上常務理事 | | |
| 22日 | 運営会議
人事の件
諸手当の件 | | |
| 27日 | 総務会議
労働・社会保険勉強会の件 | | |
| 28日 | 第73回理事会
会場 法人本部 2階会議室
第1号議案 新ケアホーム建設並びに開設に向けての活動の件 | | |



6月11日 平成24年度採用説明会
(生涯学習センター 第2会議室にて)

分科会3 「目標設定とサービスマネージメント」(役職者)
講師 JSひむろ森田副施設長
総務部 佐々木部長

- 8日 経営会議
10日 ケアホーム説明会・現地見学会
会場 Cafe Be (ぶれいすBe内)
資金計画の件
23日 第74回理事会
会場 法人本部 2階会議室

第1号議案 新ケアホーム新築工事入札参加者の決定並びに現場説明要項の決定の件

- 24日 総務会議
労働・社会保険勉強会の件
26日 運営会議
人事の件
全体研修の件

(佐々木寛 記)

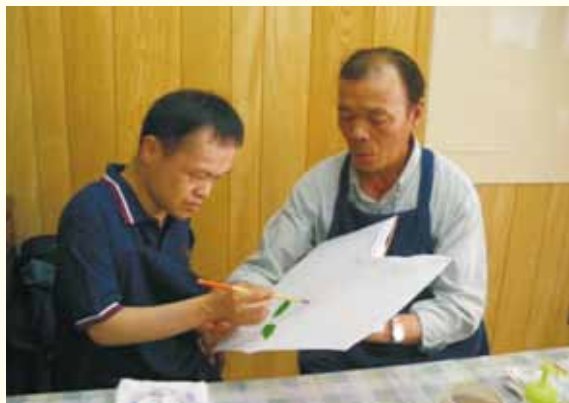
萩の杜掲示板

- 6月 2日 萩の杜運営会議 精神科相談
3日 美化の日(静養室・萩の間の清掃)
6日~10日 実習受け入れ(2名)
6日~24日 個別支援計画説明懇談
6日 ショートステイ会議(ぶれいすBeと合同)
日帰り旅行(京都嵐山)
7日 萩の杜社会議/給食会議
8日 施設見学(1名)
9日 前期利用者健康診断
13日~17日 実習受け入れ(2名)
16日 精神科相談
グループリーダー会議 ふれっとリーダー会議
22日 日帰り旅行(ハーベストの丘)
27日~7月8日
実習受け入れ(1名)
27日 安全対策委員会
28日 実習受け入れ(3名)
30日 実習受け入れ(1名)
7月 1日 美化の日(Aグループプリビング)
4日 ショートステイ会議(ぶれいすBeと合同)
5日 萩の杜社会議 給食会議
6日 萩の杜内部研修:救急救命講習(7月30日にも実施)
7日 職場体験実習受け入れ(1名)
萩の杜運営会議 精神科相談
14日 グループリーダー会議/ふれっとリーダー会議

- 萩の杜避難訓練
17日 Cグループ研修会
18日 ふれっと祝日開所
19日 実習受け入れ
21日 精神科相談
22日 家族会ほっとトーク/家族会定例会
25日 施設見学(10名)
27日~8月1日 実習受け入れ(2名)
※7月:Aグループ松岡さんに萩の杜リビングのテレビガード設置と樹木剪定をしていただきました。ありがとうございました。

- 8月 2日 萩の杜社会議/給食会議
4日 萩の杜運営会議
5日 美化の日(Bグループプリビング)
6日 法人研修
9日 ふれっと避難訓練
11日 施設見学(5名) 精神科相談
グループリーダー会議/ふれっとリーダー会議
13~16日 利用者夏季休暇
22日~9月1日
実習受け入れ(1名)
25日 精神科相談
26日 施設見学(3名)
29日 安全対策委員会

(勝部 記)



6月6日 日帰り旅行で嵐山に行き、ハンカチの絵付けをしました。



ジョブサイトひむろ掲示板

<p>6月 2日 そうぞう4グループレクリエーション（五月山動物園） トランポリン（芝生体育館）</p> <p>3日 音楽療法（にこにこ保育園）</p> <p>8日 トランポリン（芝生体育館）</p> <p>9日 プール（ラポール枚方）</p> <p>10日 音楽療法（にこにこ保育園）</p> <p>14日 エアロビクス（ゆうあいセンター）</p> <p>15日 プール（ラポール枚方）</p> <p>16日 トランポリン（芝生体育館）</p> <p>17日 音楽療法（にこにこ保育園） ジョブサイトひむろ会議 （平成22年度決算、利用者工賃の件、新ケアホームの件、旅行の件等を検討）</p> <p>20日 エアロビクス（ゆうあいセンター）</p> <p>21日 ジョブサイトひむろ職員勉強会 （『ステップの活動について』高岡支援員 山田支援員）</p> <p>22日 トランポリン（芝生体育館）</p> <p>23日 プール（ラポール枚方）</p> <p>24日 音楽療法（にこにこ保育園）</p> <p>28日 エアロビクス（ゆうあいセンター）</p> <p>29日 プール（ラポール枚方）</p> <p>30日 トランポリン（芝生体育館） 6月見学者 3組 12名 6月実習者 2組2日間 6月その他来訪者 10名</p> <p>7月 1日 音楽療法（にこにこ保育園）</p> <p>4日 エアロビクス（ゆうあいセンター）</p> <p>5日 そうぞう1グループレクリエーション（京都タワー、京都駅ビル）</p> <p>6日 トランポリン（芝生体育館）</p> <p>7日 プール（ラポール枚方）</p> <p>8日 音楽療法（にこにこ保育園）</p> <p>12日 エアロビクス（ゆうあいセンター）</p> <p>13日 トランポリン（芝生体育館）</p> <p>14日 療育グループレクリエーション（二十四節季CAFÉ.N.Te）</p> <p>15日 プール（ラポール枚方） ジョブサイトひむろ会議 （平成23年度ジョブサイトひむろ事業計画の進捗状況について検討）</p> <p>18日 祝日開所日 就労グループレクリエーション（ラウンドワン・スポッチャ）</p> <p>19日 そうぞう3グループレクリエーション（ギャラリー亀岡）</p>	<p>ジョブサイトひむろ職員勉強会 （『職員のコミュニケーション』講師：勝部真一郎 萩の杜施設長）</p> <p>20日 プール（ラポール枚方）</p> <p>21日 トランポリン（芝生体育館）</p> <p>22日 プール（ラポール枚方） 音楽療法（にこにこ保育園）</p> <p>25日 プール（ラポール枚方）</p> <p>26日 エアロビクス（ゆうあいセンター）</p> <p>27日 トランポリン（芝生体育館）</p> <p>28日 プール（ラポール枚方）</p> <p>29日 音楽療法（にこにこ保育園） 7月見学者 2組11名 7月その他来訪者 23名</p> <p>8月 1日 プール（ラポール枚方）</p> <p>3日 トランポリン（芝生体育館）</p> <p>5日 音楽療法（にこにこ保育園）</p> <p>6日 法人研修（現代劇場）</p> <p>8日 プール（ラポール枚方）</p> <p>9日 エアロビクス（ゆうあいセンター）</p> <p>10日 プール（ラポール枚方）</p> <p>11日 トランポリン（芝生体育館）</p> <p>12日 利用者慰労会（茶話会形式で） 音楽療法（にこにこ保育園）</p> <p>13～16日 夏期休暇</p> <p>17日 トランポリン（芝生体育館）</p> <p>18日 プール（ラポール枚方）</p> <p>19日 ジョブサイトひむろ会議 （高槻地区体制整備会議に関して、高槻地区の課題について検討）</p> <p>22日 エアロビクス（ゆうあいセンター）</p> <p>23日 そうぞう4グループレクリエーション（京都タワー、新阪急ホテル）</p> <p>24日 プール（ラポール枚方）</p> <p>26日 音楽療法（にこにこ保育園）</p> <p>29日 プール（ラポール枚方）</p> <p>30日 エアロビクス（ゆうあいセンター） ジョブサイトひむろ職員勉強会 （『新ケアホームについて』講師：平野貴久施設長） 8月実習生 1名1日 8月体験実習生 2組4日 8月見学 3組6名 8月その他の来訪者17名</p>
---	--

（平野 記）

発達障害支援部掲示板

○大阪自閉症支援センター

保護者研修 フォローアップ講座 2回実施
グッズ作り講座 2回実施

和泉市教育委員会

連続講座 (2回)
夏季テーマ別研修 (4回)
巡回相談 (小学校2回)

高槻市教育委員会

連続講座 (2回)
夏季テーマ別研修 (4回)
巡回相談 (小学校2回)

摂津市教育委員会

連続講座 (2回)
巡回相談 (小学校2回)

泉大津市教育委員会

テーマ別研修 (2回)
巡回相談 (小学校1回)

豊能町教育委員会

巡回相談 (幼稚園1回)

講師派遣

豊中市社会福祉協議会、大阪府社会福祉協議会、
高井田苑、朝日新聞厚生文化事業団、大阪労働局、
子どもの城協会、青い鳥工房、大阪府中央子ども
家庭センター、高槻市立清水小学校

24日 大阪府発達障害団体ネットワーク
平成23年度第2回運営委員会出席 (事務局)
就労準備ガイダンス第1回実施

27日 成人期家族グループ上期第1回実施
大阪府成人期支援機関連絡会出席 (事務局)

28日 施設コンサルテーション
(泉州中障がい者就業・生活支援センター)

29日 施設コンサルテーション (地域活動支援セン
ターかけはし)

30日 福祉教育連携事業移行支援モデル事業 (守口
支援学校)

7月 6日 施設コンサルテーション (地域活動支援セン
ター菜の花)
施設コンサルテーション (地域活動支援セン
ター陽だまり)

8日 就労準備ガイダンス第2回実施

15日 アクトおおさか4回連続講座 第2回
「疑似体験・見立て・アセスメントのポイント」

21日 大阪府第4次障がい者計画第9回検討委員会
出席

22日 就労準備ガイダンス第3回実施

25日 成人期家族グループ上期第2回実施

8月 5日 就労準備ガイダンス第4回実施

22日 施設コンサルテーション (地域活動支援セン
ター菜の花)

25日 大阪府発達障がい者支援センター連絡協議会成
人部会出席

26日 就労準備ガイダンス第5回実施
高等学校における支援教育推進会議出席

31日 施設コンサルテーション (地域活動支援セン
ターかけはし)
平成23年度第1回若者サポートステーション
支援ネットワーク推進協議会出席 (新澤 記)

○アクトおおさか

6月 2日 発達障害者支援センター全国連絡協議会役員
会出席

3~4日 発達障害者支援センター全国連絡協議会総
会・研修会2名派遣 (大分)

9日 福祉教育連携事業リーディングスタッフ養成
研修

10日 アクトおおさか4回連続講座 第1回
「高機能広汎性発達障害について」
講師 平山照美医師 (こころの健康総合センター)

発達障害児療育支援部掲示板

○児童デイサービスセンター an

6月 10日 保護者研修入門
12日 発達障がい療育等支援事業所合同実践報告会
24日 保護者研修実践

27日~7月8日

個別支援計画立案面談開始

7月 1日 保護者研修入門

15日 保護者研修実践

8月 6日 法人研修

8~12日 夏季休暇

9・11日 発達障害児療育支援部サマープログラム

20日 施設見学会 (6名)

8日 保護者研修 入門B

12日 発達障がい療育等支援事業所合同実践報告会

15日 平成22年度 療育終了時児保護者実践交流会

20日~7月1日
個別支援計画立案面談開始

25日 施設見学会 (1名)

7月 6日 保護者研修 入門A

9日 施設見学会 (2名)

13日 保護者研修 入門B

20日 避難訓練

23日 施設見学会 (10名)

8月 6日 法人研修

9・11日 発達障害児療育支援部サマープログラム

20日 施設見学会 (8名)

23日 療育施設見学 (13名)

○自閉症療育センター will

6月 1日 保護者研修 入門A

○自閉症療育センターLink

6月 9日 保護者研修 入門B
 12日 発達障がい療育等支援事業所合同実践報告会
 16日 保護者研修 入門A
 20日～7月1日 個別支援計画立案面談開始

7月 7日 保護者研修 入門B
 14日 保護者研修 入門A
 8月 6日 法人研修
 9・11日 発達障害児療育支援部サマープログラム
 (谷岡 記)



避難訓練にて、谷岡センター長が率先して避難ばしごを体験する



保護者研修にて 保護者の皆さまに自閉症の子どもたちの世界を疑似体験していただいている場面

ジョブサイトよど掲示板

6月 2日 5階グループ・レクリエーション
 7日 エアロビクス (生活介護)
 8日 ジョブサイトよど・ジョブジョイントおおさか
 運営会議/グループリーダー会議
 9日 J3グループ・レクリエーション/コロッセ事業
 会議
 10日 4階グループ・レクリエーション
 13日 保護者説明会/十三地区管理職会議
 体験実習の受け入れ (~14日 視覚特別支
 援学校より1名)
 14日 5階グループ・レクリエーション
 15日 3階グループ・レクリエーション
 体験実習の受け入れ (~16日 豊中支援学
 校より1名)
 18日 職員研修 (職場でのコミュニケーション/社
 会福祉の法制度について)
 20日 研修生受け入れ (~24日 社会福祉法人 以
 和貴会ゆらくの里より1名)
 21日 エアロビクス (生活介護) /職員全体会議
 22日 ジョブサイトよど・ジョブジョイントおおさか
 運営会議/グループリーダー会議
 23日 コロッセ事業会議
 24日 外食プログラム (生活介護)
 27日 施設見学会 (10名)
 28日 給食会議/淀川区自立支援協議会事務局会議
 (佐々木副施設長出席)
 30日 支援員会議

7月 2日 土曜開所日 (陶芸教室)
 4日 十三地区管理職会議
 5日 エアロビクス (生活介護)
 6日 ジョブサイトよど・ジョブジョイントおおさか
 運営会議/グループリーダー会議
 8日 コロッセ事業会議
 14日 歯科検診/淀川区自立支援協議会定例会
 19日 エアロビクス (生活介護)
 20日 ジョブサイトよど・ジョブジョイントおおさか
 運営会議/グループリーダー会議 ※台風の
 ため臨時休業
 21日 コロッセ事業会議
 22日 外食プログラム (生活介護)
 23日 土曜開所日 (阿倍野防災センター)
 25日 施設見学会 (9名)
 26日 給食会議
 27日 利用者健康診断
 28日 コロッセ事業会議/支援員会議
 29日 外食プログラム (生活介護)
 8月 1日 十三地区管理職会議
 2日 エアロビクス (生活介護)
 3日 ジョブサイトよど・ジョブジョイントおおさか
 運営会議/グループリーダー会議
 6日 法人研修/淀川花火大会コロッセ販売
 8日 体験実習受け入れ (~10日 生野支援学校
 より1名)
 実習生受け入れ (~9月9日 川崎医療福祉

- 大学学生1名)
- 11日 コロケ事業会議
- 12日 利用者慰労会
- 13～16日 夏季休暇
- 18日 支援員会議
- 19日 保護者研修会
- 20日 土曜開所日(昼食バイキング)
- 22日 体験実習の受け入れ(～24日 住之江支援学校より1名)
- 実習生受け入れ(～9月24日 川崎医療福祉

- 大学学生1名)
- 23日 エアロビクス(生活介護) / ジョブサイトよど・ジョブジョイントおおさか運営会議 / 職員情報交換会
- 24日 グループリーダー会議
- 25日 コロケ事業会議
- 29日 施設見学会
- 30日 淀川区自立支援協議会事務局会議

(佐々木祐 記)

ふれいすBe 掲示板

- 6月 3日 高槻北消防署の立ち入り検査
- 11日 カフェコンサート開催(出演:小濱達郎様)
過去最高の123名の来場者数となり盛況。ご出演いただきました小濱様ならびにお越しいただいた皆様にお礼申し上げます。
- 13日 ご利用者の健康診断実施
兵庫医療大学より作業療法実習1名を受入(～8月5日まで)
- 14日 内部研修「感染症対策」を実施
- 18日 日本財団より570,000円助成 製菓室へ新しくエアコンと冷凍庫を設置
6月の見学:7件65名
- 7月 1日 新規利用者1名の通所利用が開始
- 11日 社会福祉法人以和貴会(奈良県)より実習1名を受入(～15日まで)

- 23日 土曜プログラムを実施 チームごとに趣向をこらしたプログラムを実施
7月の見学:5件31名

8月13～16日

- 夏季休暇
- 17日 千葉県マザー牧場でテミルプロジェクト主催のイベント(テミフェス)に参加
全国からプロジェクトに参加している4法人が合同で販売を実施
ふれいすBeはガレットを販売
- 29日 大阪総合福祉専門学校から相談支援実習1名を受入(～9月30日まで)
8月の見学:7件52名

(下 記)



カフェコンサート開催(出演:小濱達郎様)
過去最高の123名の来場者数



土曜プログラム ボーリング場にて

ジョブジョイントおおさか 掲示板

- 6月 1日 ジョブジョイント会議・プログラム調整会議
/ 就労戦略会議
ドラフト会議
- 8日 ジョブジョイント会議・プログラム調整会議
/ 就労戦略会議
中山清司氏スーパーバイズ(研修)

- 15日 ジョブジョイント会議・プログラム調整会議
/ 就労戦略会議
- 18日 ジョブサイトよと・ジョブジョイントおおさか職員研修
- 22日 ジョブジョイント会議・プログラム調整会議
/ 就労戦略会議

- | | | |
|--|---------------|--|
| 中山清司氏スーパーバイズ | 14日 | 歯科検診 |
| 23日 日本スタッフセンター&インサイト&ジョブ
ジョイントおおさか勉強会 | 27日 | 前期健康診断 ドラフト会議
ジョブジョイント会議・プログラム調整会議
／就労戦略会議 |
| 24日 会社見学① 株式会社東京海上ビジネスサ
ポート（東京海上の特例子会社） | 29日 | 会社見学 日本パーソネルセンター株式会社
（UCC上島珈琲の特例子会社） |
| 28日 会社見学② 株式会社東京海上ビジネスサ
ポート | 8月3・10・17・24日 | ジョブジョイント会議・プログラム調整会議
／就労戦略会議 |
| 29日 ジョブジョイント会議（個別支援計画ふりか
えりと今後の課題検討会）
プログラム調整会議／就労戦略会議 | 10日 | 日本スタッフセンター&インサイト&ジョブ
ジョイントおおさか勉強会 |
| 7月 2日 土曜開所日 「土曜クラブ」 | 13～16日 | 夏期休業 |
| 6日 ジョブジョイント会議・プログラム調整会議
／就労戦略会議 | 20日 | 土曜開所日 「土曜クラブ」 |
| 11～15日 個別支援計画懇談 | 26日 | 見学者来所（社会福祉法人つづじ・広島県） |
| 12日 日本スタッフセンター&インサイト&ジョブ
ジョイントおおさか勉強会 | 31日 | プログラム調整会議／就労戦略会議
（高橋亜 記） |
| 13・20・27日 | | |
| ジョブジョイント会議・プログラム調整会議
／就労戦略会議 | | |

萩の杜家族会掲示板

- | | |
|---|--|
| 6月 11日 イオンイエローレシートキャンペーンに参加 | 定例会 |
| 23日 サークル萩開催
手作り品の作成と情報交換 | 施設からの報告
安全対策委員会報告
成年後見制度勉強会について
東日本大震災義援金報告 他 |
| 26日 カトリック教会にて花の販売 | 28日 サークル萩開催
手作り品の作成と情報交換 |
| 27日 安全対策委員会 | |
| 7月 11日 イオンイエローレシートキャンペーンに参加 | 8月 11日 イオンイエローレシートキャンペーンに参加 |
| 13日 4家族会会長懇談会 | 29日 安全対策委員会 |
| 17日 カトリック教会にて花の販売 | |
| 22日 ホットトーク
勝部施設長、松本栄養士、杉山看護師を囲ん
での懇談会 | （飯塚 記） |

ジョブサイトひむろ家族会掲示板

ジョブサイトひむろ家族会結成10周年記念懇親会報告

ジョブサイトひむろ家族会結成10周年を記念し、6月28日に高槻市役所15階『桃莉』にて懇親会を開催いたしました。

当日は家族会会員39名に法人より佐々木部長、平野施設長の参加を賜わり総勢41名の賑やかな集まりとなりました。

初代会長沖本様から結成当初18名のメンバーが現在55名と3倍を越し、時代の流れを感じたという感想から発足当初の手探り状態から組織を固め、障害のある子を持つ親としての悩み、あるいは地域での問題、家族内の問題等々をお互いに共有しながら成長してきたことを縷々お話し、初代の施設長佐々木部長からも過去の厳しい時代のあったこと、平野施設長からも職員の悩み、子供たちと接しながら互いに成長してきたことなど本当に身

近な話題をお話いただき、所定の時間をたっぷりを使いながら懇親の実をあげました。

この企画は役員会で自然発生的に盛り上がり、各役員さんの努力で無事開催にこぎつけました。

過去、定例会、総会、講演会等の集まりにおいて、多数の出席をいただきながらも、どうしても身近で、親しい方々が席を並べることが多く、新しく入会された方たちから中々馴染めないところがあるとの指摘もあり、今後の家族会のあり方に問題意識があった中で今回の催しは参加者全員から今後もこのような会を催して欲しいという機運が高まりました。新たな試みとして次回の総会を生涯学習センターで開催し、懇親会を今回と同じ会場で行うのがいいという意見に纏まりましたことは今回の企画を立案し、開催された役員一同の大きな喜びになりました。

ありがとうございます。



ジョブサイトひむろ家族会結成10周年記念懇親会

- 6月 27日 新ケアホーム説明会（現代劇場にて開催）
入居希望者17家族出席
- 28日 ジョブサイトひむろ家族会臨時総会（懇親会）開催
場 所：高槻市総合センター・中華料理「桃莉」
出席者：35家族39名（夫婦参加4家族）
※佐々木前施設長、平野施設長の2名を加えて総数41名
- 7月 13日 家族会会長懇談会（法人本部にて開催 豊澤会長 出席）

- 14日 新ケアホーム説明会（現代劇場にて開催）
入居希望者20家族出席
- 25日 新ケアホーム「そら」・「にじ」説明会（法人本部にて開催）
入居希望者13家族出席
- 26日 新ケアホーム「さん」説明会（法人本部にて開催）
入居希望者7家族出席
- 27日 広報委員会（法人本部にて開催）
機関紙第46号発送協力
- 8月 10日 新ケアホーム説明会並びに現地見学会（Cafe Beにて開催）
入居希望者20家族参加
- 22日 役員会開催（法人本部にて開催）
1 定例会の打ち合わせ

（妹尾 記）

北摂杉の子会 親睦ゴルフ会の発足

家族並びに法人の方々の懇親を深めるために、ゴルフ愛好者の会を開いております。
8月4名、9月7名の参加をいただきました。誌面をお借りいたしまして同好の方を募らせていただきます。次回は11月を予定いたしております

世話人代表 ひむろ家族会 豊澤進

連絡先 072-669-1464 090-6673-7689

JSよど&JJおおさか家族会掲示板

- | | | | |
|-------|----------------------|---------------------|-------------------------------|
| 6月 2日 | オアシス総会で100円喫茶実施 | ジョブサイトよど佐々木副施設長、ジョブ | |
| 6日 | 家族会役員会開催 100円喫茶実施 | ジョイントおおさか高橋副施設長出席。 | |
| 13日 | 十三市参加 | 会員の自己紹介とフリートークを実施 | |
| | ジョブサイトよど研修会で100円喫茶実施 | 100円喫茶実施 | |
| 16日 | オアシス座談会で100円喫茶実施 | 20日 | 大阪市心身リハビリテーションセンター訪問
(会長) |
| 20日 | オアシスサロンで100円喫茶実施 | 8月 1日 | オアシスサロンで100円喫茶実施 |
| 23日 | オアシス役員会で100円喫茶実施 | | 家族会役員会開催100円喫茶実施 |
| 7月 4日 | 家族会役員会開催 100円喫茶実施 | 4日 | オアシス役員会で100円喫茶実施 |
| 11日 | オアシスサロンで100円喫茶実施 | 6日 | 大阪市西区そよかぜまつりにて掲示・せんべい販売 |
| 13日 | 十三市参加 | 19日 | ジョブサイトよど研修会で100円喫茶実施 |
| | 法人内家族会会長懇談会に参加（会長） | 24日 | 理事長と語ろう会 十三がんこ本店で実施
(福田 記) |
| 14日 | オアシス役員会で100円喫茶実施 | | |
| 19日 | 給食試食会実施 | | |
| | 7月定例会開催（会員24名参加） | | |

ふれいすBe家族会掲示板

- | | | |
|-------|--|---|
| 6月 3日 | 5月末日を期限として、家族会会員よりご協力いただいた「東日本大震災に伴う義援金」を集計
結果131口（1口500円）65,500円を法人本部に送金 | 年間活動計画について
父親懇談会について
グループ別参観について
その他 |
| 9日 | 第2期 第2回役員会（場所：ふれいすBe会議室） | 18日 父親の会準備打ち合わせ |
| 7月 1日 | グループ別参観&カフェBeランチ AR1（ア | |

クティビティルーム1)
 子供たちの日頃の取り組みの様子や作業の流れや施設全体を、下 施設長に案内をいただき参観。その後、子供たちが毎日食べているカフェBeでのランチをいただきながらの懇談（参加者7名）

※この企画は、一度に多数の人々の参観は施設の運営上むずかしいとのことで、基本的にはAR毎に少人数で回数を多くしています。

- 13日 家族会会長懇談会（本城会長出席）
- 14日 第2期第3回役員会（場所：ぶれいすBe会議室）
- グループ別懇談会について
- 父親の会について
- パソコン購入について
- 萩の杜見学会について
- その他

27日 グループ別参観ランチ AR2（参加者4名）

8月 11日 萩の杜を見学（役員）
 勝部施設長と下半期に家族会として見学勉強会をさせていただくための打ち合わせを行う。
 第2期第4回役員会（場所：ぶれいすBe会議室）

10月1日定例会開催について
 グループ別参観、進行状況について
 萩の杜家族会主催の「成年後見制度勉強会」報知について
 その他

23日 9月以降の活動スケジュールを会員に、事前のお知らせとして配布

（本城 記）

大阪自閉症支援センターを発展させる会 オアシス掲示板

- 6月 2日 平成23年度オアシス総会
- 12日 大阪府内療育6事業所合同の実践報告会（相談役、会長参加）
- 13日 オアシスサロン
- 16日 大澤佳世子先生を囲んでの座談会（13名参加）
- 23日 6月度役員会、全委員会
- 24日 大阪府発達障がい団体ネットワーク会、総会（副会長参加）
- 7月 11日 オアシスサロン（長居障害者スポーツセンター和室）

- 13日 十三市
- 14日 7月度役員会
- 24日 オアシス会員見就労体験実施（機関誌いるか通信の発送業務体験）

- 8月 1日 オアシスサロン
- 4日 8月度役員会
- 6日 西区そよかぜまつり（相談役、副会長参加）
- 21・28日 調理実習

（前野 記）

北摂杉の子会後援会掲示板

<近況報告>

- 6月
 個人会員：504名 団体会員：11団体 合計：515名／
 団体 寄付：1件
- 7月
 個人会員：509名 団体会員：12団体 合計：521名／
 団体 寄付：2件
- 8月
 個人会員：515名 団体会員：12団体 合計：527名／
 団体 寄付：2件

<行事>

第11回（平成23年度）定例役員会を開催（議事録抜粋）
 期 日 平成23年6月1日
 参加者 役員（10名中9名）、相談役（5名中3名）、
 監査役（1名）

- 1. 平成22年度の活動
- 1) 会員数
 個人会員：539名 団体会員：12団体 合計：551名
 ／団体
- 2) 後援会費及び寄付

後援会費：108万円 寄付：55万円 合計：163万円

- 3) 経緯
 法人への寄付
 平成22年6月に170万円
 JSひむろの老朽化したクリーニング設備更新費用の一部：100万円
 法人各事業所の個別紹介ビデオの作製費用：70万円
 平成23年5月、11月に法人の資金としてそれぞれ10万円及び11万円
 合計191万円
 セキスイハイム住宅紹介制度は実績なし
 法人各事業所に後援会のポスターを設置

2. 平成22年度の収支と会計監査報告

- 1) 収入
 前期繰越金：1,746,783円 寄付金：550,239円 後援会費：1,124,000円
 受取利息：548円
 収入合計：3,421,570円（今年度の収入：1,674,787円）
- 2) 支出
 事務費：1,100円 通信費：1,980円 雑費：14,740円
 法人への寄付：1,908,000円 支出合計：1,925,820円

- 3) 次期繰越金
1,495,750円（平成23年3月31日現在）
上記について会計から報告され、監査役が適正に運用されていることを確認した

3. 平成23年度の活動計画

1) 法人への寄付

145万円を寄付（平成23年6月に実施済み）その用途について中村理事長から説明があり、異議なく了承された

萩の杜、ケアホームみやた、ジョブサイトひむろ、ぶれいすBe、ジョブサイトよど、児童サービスセンターanの6施設／事業所にAEDを設置するための費用に充当

2) 後援会員の整理と資金計画

退会希望者などがあつたため、個人及び団体会員の整理を行った

今年度開始時の会員数は 個人会員：515 団体会員：8
合計：523名／団体

資金計画→後援会費、寄付、その他で約173万円の取

入を目標にする

3) 住宅紹介制度（セキスイハイム）

今年度も継続する（住宅を建てる際にこの制度を利用すると、成約者：建物本体価格の3%割引、後援会に50万円、紹介者に10万円が支払われます：連絡先は後援会事務局）

<その他のご報告>

平成23年度以降の後援会役員は次のとおり

会 長：小倉襄二

幹 事：植松芳哲、小林夏子、豊澤 進、福田啓子、
本城征治朗、松岡洋市

会 計：古門 薫

事務局：棚山薫晴、佐々木寛昭

（以上、役員）

監 査：永田啓子

相談役：今村一二三、中村節史、沖本卓郎、松上利男、
本田英世

（棚山 記）

寄付と後援会入会のお願い

社会福祉法人「北摂杉の子会」後援会の趣旨に賛同され、ご支援して下さる方々の寄付及び後援会への入会をお願い申し上げます。寄付金と後援会費は法人を支援するための資金とさせていただきます。お振込みは右記口座までお願いいたします。皆様のご支援とご協力をお願い致します。

記

- | | | |
|------------|------|---------|
| 1. 寄付金 (注) | | |
| 2. 個人会員 | 年間一口 | 2,000円 |
| 3. 団体会員 | 年間一口 | 10,000円 |

郵便振込口座北摂杉の子会
00920-8-90859

（注）任意団体である後援会の領収書では確定申告の際に寄付金控除を受けることは出来ませんので、寄付金控除の出来る領収書をご希望の方は法人の下記口座にお振込み願います。

銀行名：三菱東京UFJ銀行 口座名：社会福祉法人北摂杉の子会 理事 中村節史 口座番号：5085555

□法人へのご寄附に感謝いたします。（平成23年6月1日～平成23年8月31日）

中村節史 福田啓子 加地隆一 河端良一 奥浩子 寺田軌道株式会社 浅野一夫 棚山薫晴 加藤浩 木下直子 切石芳輝 高原正義 豊澤進 山田健一 大阪自閉症支援センターを発展させる会オアシス

□後援会入会と会費納入（平成23年5月4日～平成23年8月22日）

本城 征治朗 本城三四子 本城 翼 伊丹産業株式会社 筧下紘平 筧下麻衣子 伊東洋一 木下 潤 山田千明 林 秀郎 片岡厚子 中西邦夫 伊藤雅子 早原君子 南木京子 藤下智子 谷村剛史 谷村佳拓 谷村美喜 梁 恵子 遠藤仁子 井上喜代子 池田 寛 三木春子 藤本信子 丸澤容子 田代 満 山口 勉 南タミ子 原 節子 吉谷登美子 切金一見 桂 塩鯛 藤澤一雄 藤澤千恵子 森田英子 原 尚子 小林伸次 小林真理子 永田健二 永田啓子 永田泰士 寺村有里子 遠藤一太 吉川輝夫 吉川弘子 榎本滋子 志村敦子 南 浩聡 南 昌子 和田恵美子 社会福祉法人以和貴会（理事長 下村卓司） 中尾泰子 新井清也 降幡 恵 宮崎慶子 中井淑子 山田信子 森谷弘雅 森谷薫美 森谷奈津美 棚山 妙 棚山薫晴 棚山勝行 相澤美由紀 澤田博美 黒澤桂子 梅本順子 木谷政之 若月静子 井上惇子 今井恵美子 大上直子 伊福久子 森田 弘 森田豊子 森田俊博 森田靖紀 森田和成 古門貞利 矢橋寿樹 矢橋ひとみ 矢橋耕助 大仲由香子 藤井弘子 副島雄彦 佐竹恭一 加茂明男 鈴木都美 丸山繁一 中村千明 長尾京子 長尾智久 長尾あゆみ 長尾杏奈 長尾幸英 四方あかね 丹藤優香

□後援会への寄付（平成23年5月29日～平成23年8月23日）

棚山薫晴 小倉襄二 和田恵美子 矢橋雅文 寺田軌道株式会社

□家族会へのご寄附に感謝いたします。（平成23年6月1日～平成23年8月31日）

辻 五子 本田英世 植松芳哲 田口恵美子 田口容子

□物品のご提供に感謝いたします。（平成23年6月1日～平成23年8月31日）

三光株式会社 株式会社WOW GROUP（ワオグループ:旧株式会社日本スタッフセンター） 大坂祐美子 不二園芸 岡田公美子 荒木 河島 鶴谷久子 白木 船岡ひろ子 松尾

□ボランティアに感謝いたします。（平成23年6月1日～平成23年8月31日）

草刈茂代 山田雅敏 岸本健佑 秋元佐知子 橋本久美子 石橋明日香 伊藤一真 山内凌太 赤木涼 小寺夏海 岸本華寿美 山口希子 酒井恵美子 佐々木英世 小林夏子 西本愛 酒井真由美 原克明 小川瑞江 藪本真由子 木村沙樹

施設住所一覧

- 社会福祉法人北摂杉の子会 法人本部事務所
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-6 奥野ビル402
TEL (072)662-8133 FAX (072)662-8155
[E-Mail] info@suginokokai.com
[URL] http://www.suginokokai.com
- 大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか
〒532-0023 大阪市淀川区十三東3丁目18-12 イトウビル1F
TEL (06)6100-3003 FAX (06)6100-3004
[E-Mail] act-osaka@suginokokai.com
[URL] http://homepage3.nifty.com/actosaka/
- 知的障害者生活施設 萩の杜
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072)699-0099 FAX (072)699-0130
[E-Mail] haginomori@suginokokai.com
- 大阪自閉症支援センター
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL&FAX (06)4862-5454
[E-Mail] o-center@suginokokai.com
[URL] http://oasc.jp
- 萩の杜ショートステイセンターぶれす
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072)699-0844 FAX (072)699-0130
[E-Mail] breath@suginokokai.com
- 児童デイサービスセンターan
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06)6838-8990 FAX (06)6838-7015
[E-Mail] an@suginokokai.com
[URL] http://oasc.jp
- ケアホームとんだ
〒569-0814 高槻市富田町5-13-14 101号室
- 自閉症療育センターwill
〒569-0077 高槻市野見町3-14 第2高谷ビル2F
TEL (072)662-0100 FAX (072)662-0056
[E-Mail] will@suginokokai.com
- ケアホームみやた
〒569-1142 高槻市宮田町3-4-1 105号室
- 自閉症療育センターLink
〒573-0032 枚方市岡東町24-10 アイエス枚方ビル3F
TEL (072)841-2411 FAX (072)841-2412
[E-Mail] link@suginokokai.com
- ジョブサイトひむろ
(就労移行支援・生活介護・就労継続支援B型)
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27
TEL (072)697-2234 FAX (072)697-2222
[E-Mail] himuro@suginokokai.com
- ジョブサイトよど (生活介護・就労継続支援B型)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06)6838-7007 FAX (06)6838-7015
[E-Mail] yodo@suginokokai.com
- 高槻地域生活総合支援センターぷれいす Be
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4700 FAX (072)681-4900
[E-Mail] placebe@suginokokai.com
〈短期入所〉 TEL (072)681-4720
- ジョブジョイントおおさか (就労移行支援・自立訓練)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目9-8 十三東ビル2F
TEL&FAX (06)6100-0150
[E-Mail] jj@suginokokai
- 生活支援センターあんだんて
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4755 FAX (072)681-4900
[E-Mail] andante@suginokokai.com
- 高槻障害者地域移行支援センターだ・かーぼ
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4755 FAX (072)681-4900
[E-Mail] da-capo@suginokokai.com

※■は行政よりの委託事業

発行人 社会福祉法人北摂杉の子会
理事長 中村 節史
発行所 北摂杉の子会
住 所 大阪府高槻市大字萩谷14番地1
発行日 2011年10月10日

定価100円